

スプリンクラー消火設備の **管末テスト弁** について

— 西日本防災システム

末端試験弁とも言います。

NBS 119

スプリンクラー消火設備における管末テスト弁（末端試験弁）について

標準的なスプリンクラー消火設備においてこの**管末テスト弁**は、各階の
アラームバルブ（自動警報弁）と対となっています。

圧力計、オリフィス、バルブが一组です。



千住スプリンクラー製

設置位置 設置位置はアラームバルブから**最遠**ヘッド以降に設置されています。

参考：スプリンクラー消火設備系統図 →

機能 当該階の最もアラームバルブから離れている（**放水条件の悪い**）ヘッド
から、規定圧力以上（0.1Mpa）を放水できるかを確認するための機器です。

オリフィスが入っており、ヘッド1個と同量の放水量を負荷できます。

- 試験弁のもう1つの大切な機能として、増設、移設工事などで水を抜いた後、通水する際、配管内のエア抜きとして使用します。

放水試験 この試験は、設備が完成した試験結果に記載されますが、竣工後の大規模
改修、増設などの際も当該階の管末試験を実施します。

試験方法 管末開放によるポンプの自動起動の必要はありません。ポンプ起動後、管末
を開放し、放水圧力をチェックしてください。

POINT

- ポンプの自動起動テストは、ポンプ室内圧力タンクで行なってください。



西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ →

スプリンクラー消火設備の **管末テスト弁** について

—西日本防災システム

NBS 119

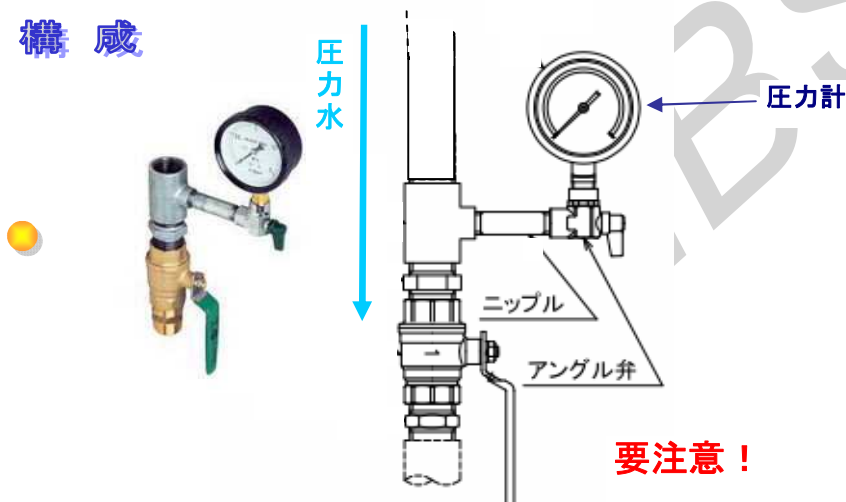
増設、移設工事

増設工事や移設工事を行なう場合、水抜きの際にはアラーム閉止後管末を開放します。

管長が長い系統では、アラームのドレーンより先に管末をゆっくり開放してください。

工事完了後、通水時には管末テスト弁から配管内のエアを抜いてください。
この作業は、慎重に確実にこなしてください。

構成



要注意！

閉止用コックバルブの開閉はメーカーにより真逆の機器がありますので注意が必要です

POINT

- **新築時**の管末テスト弁の排水接続先は特に注意してください。圧力が高く放水量もかなりありますので、エアコンドレーンなどの共通管に接続すると逆流する恐れもあります。



西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

